

製品名: p57 (リン酸化 Thr310) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05179**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	CDKN1C
別名	CDKN1C; KIP2; Cyclin-dependent kinase inhibitor 1C; Cyclin-dependent kinase inhibitor p57; p57Kip2
遺伝子 ID	1028.0
SwissProt ID	P49918
免疫原	抗血清は、ヒト p57 Kip2 の Thr310 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 267-316

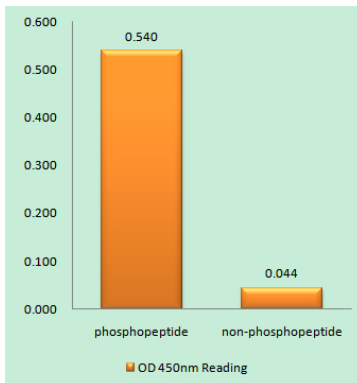
背景

この遺伝子はインプリンティングを受けており、母系アレルが優先的に発現する。コードされているタンパク質は、いくつかの G1 サイクリン/Cdk 複合体に強く結合し、細胞増殖を負に制御する。この遺伝子の変異は散発性癌およびベックウィズ・ヴィーデマン症候群に関連していることが示唆されており、この遺伝子が腫瘍抑制因子候補となる可能性を示唆している。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする3つの転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2010年10月]、疾患: CDKN1C の欠陥はベックウィズ・ヴィーデマン症候群 (BWS) の原因である[MIM:130650]。BWS は遺伝的に不均一な疾患であり、臍帯ヘルニア (臍帯ヘルニア)、出生前および出生後の過成長、および巨舌症などの前腹壁欠損を特徴とする。その他の頻度は低いものの、合併症としては、特定の発達異常や胎児性腫瘍の素因などがあります。、疾患: CDKN1C の異常は腫瘍形成に関与しています。機能: いくつかの G1 サイクリン/CDK 複合体 (サイクリン E-CDK2、サイクリン D2-CDK4、サイクリン A-CDK2) に対する強力なタイトバインディング阻害剤であり、有糸分裂期サイクリン B-CDC2 に対しても、より低い程度に阻害作用を示します。細胞増殖の負の調節因子です。生涯を通じて非増殖状態を維持する役割を果たす可能性があります。、類似性: CDI ファミリーに属します。、組織特異性: 心臓、脳、肺、骨格筋、腎臓、膵臓、精巣で発現します。胎盤では高レベル、肝臓では低レベルが認められます。、

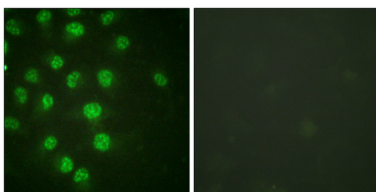
研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M_DNA;

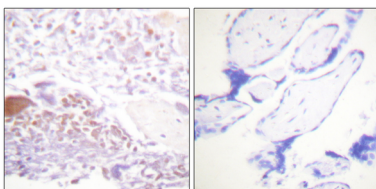
画像データ



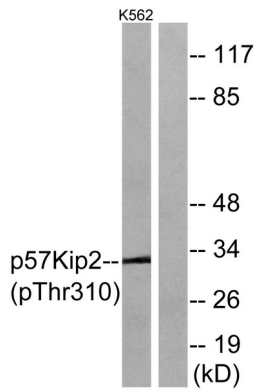
p57 Kip2 (リン酸化 Thr310) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



p57 Kip2 (リン酸化 Thr310) 抗体を用いた、血清 20% 30%処理した HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



p57 Kip2 (リン酸化 Thr310) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した K562 細胞のライセートを p57 Kip2 (リン酸化 Thr310) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロックされている。